

研究・調査報告書

報告書番号	担当
102	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳) Influence of drinking alcohol on atherosclerotic risk in alcohol flushers and non-flushers of oriental patients with type 2 diabetes mellitus. 2型糖尿病の東洋人患者のアルコールフラッシャーと非フラッシャーにおける動脈硬化の危険性に関する飲酒の影響	
執筆者 Wakabayashi I, Masuda H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol Alcohol. 41(6):672-677 (2006)	
キーワード フラッシャー、アルコール、2型糖尿病、動脈硬化	
要 旨 目的： 東洋人の飲酒による顔面潮紅はアルコールに対する感受性が高いことを示す典型的な徴候である。この研究では糖尿病を持つ患者でアルコールフラッシャーと非フラッシャーでの動脈硬化を生じる危険性に飲酒が影響するかどうか検討した。 方法： 2型糖尿病を持つ被験者 225 名で横断的研究を行った。アルコールに対する感受性については顔面潮紅に関する質問表によって調査した。被験者は飲酒量によって 3 つのグループに分けられた (非飲酒グループ； 軽度飲酒グループ： <140 g/週； 重度飲酒グループ： 140 g/週以上)。 結果： 収縮期血圧と血中 HDL コレステロールは非飲酒グループと比べて、重度飲酒グループで有意に高値であった。フラッシャーと非フラッシャーでの比較では、ボディマス指数、血圧、血中総コレステロール、HDL コレステロール、尿酸、フィブリノーゲン、シアル酸などのレベルで違いは見られなかった。アルコールフラッシャーの被験者で、重度飲酒グループの拡張期血圧と HDL コレステロール値は非飲酒グループよりも有意に高い値であった。一方、非フラッシャーの血圧と HDL コレステロールは非飲酒、軽度飲酒、重度飲酒グループ間で有意な差はなかった。血清総コレステロール値はフラッシャー、非フラッシャーの 3 つのグループ (非飲酒、軽度飲酒、重度飲酒) 間で違いはなかった。 結論： 血圧と HDL コレステロール値は、飲酒によって非フラッシャーよりもフラッシャーでより影響されやすい。このことは、2型糖尿病を持つ東洋人で飲酒が動脈効果危険因子に与える影響を検討する際に、飲酒による潮紅反応で評価したアルコールに対する感受性を考慮に入れるべきであることを示している。	